

平成 20 年 1 月 26 日（土）6:15～（2 分間）NHK 総合「おはよう日本」

“脱マイカー社会” 実現へ課題は

（アナウンサー）

CO2 の排出が多い今のマイカー中心の社会を改め、鉄道やバスなどの公共交通機関に重点を移していくにはどうすればいいか考える催しが、昨日東京都内で開かれました。このフォーラムは地球温暖化対策として、公共交通機関の利用を促進しようと国土交通省などが開いたもので、鉄道会社や自治体がそれぞれの取組みを紹介しました。

このうち青森県八戸市の担当者は、この 10 年間でバスの利用者が 40%も減り、4 分の 3 の路線が赤字になっている現状を説明しました。

一方、三重県の三岐鉄道の担当者は、駅の近くに新たに駐車場を作ったり、電車のスピードを上げて所要時間を短くしたりして利便性を高めた結果、減少し続けていた乗客が増え、マイカーからの切り替えで、およそ 300 トンの二酸化炭素を削減できたと報告しました。

国内では地方を中心に車への依存度が高く、自家用車から排出される二酸化炭素は、基準となる 1990 年に比べ、45%増加しています。参加者からは、駅と住宅地を結ぶバス路線を目に見えて便利にすれば、波及効果で乗客は増えていくなどと、マイカーに変わる便利さを示すことが重要だという意見が相次ぎました。

（名古屋大学 加藤准教授）

車をどういうふうにするか、あるいは交通をどういうふうに変えていくかということが、地球温暖化を防止するために非常に重要なことになってくるんですね。東京とか大阪のような大都市以外は車社会で、車がないと生きていけない、暮らしていけないような世の中なので、それをどういうふうにするか、まちづくりであるとか、ライフスタイルであるとか、そういうものをどう変えていくかということが重要になってくるということですね。